

活動報告

第 11 回 日本臨床歯科学会 大阪支部 技工士部会 2021 年 12 月 4 日 (土)

演題 「チーム医療におけるデジタルデンティストリーの現状」
～診察・検査・診断・補綴・メンテナンスまで～

演者：医療法人タニオ歯科クリニック Dr. 谷尾 和正 / Dt. 大塚 洸輝 / Dh. 丸山 葉子

座長：日本臨床歯科学会大阪支部技工士部会 藤本 光治

2021 年 12 月 4 日 (土曜日) オービック御堂筋ビルにおいて、第 11 回 日本臨床歯科学会 大阪支部 技工士部会が開催された。

新型コロナウイルス感染防止のため、会場参加、Web 配信のハイブリッド開催であったが
会員歯科技工士、歯科医師、歯科衛生士含め 70 名以上にご参加いただいた。

(現地参加、zoom 視聴合わせて)

昨今、注目の高いデジタルデンティストリーについて、同じ歯科医院に所属されている歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士が院内で行なっている歯科治療についてそれぞれの立場から使用方法や注意点を症例を用い解説された。

まず最初に、歯科医師の立場からデジタルの取り組みについての概要を述べ、デジタルテクノロジーの恩恵、また、それを使用する場合は従来のアナログの方法の技術、知識を踏まえた上でデジタルを使うことの重要性を唱えた。

その後、歯科技工士が口腔内スキャナーにて採得されたデータから CAD/CAM システムを用いてデザイン、加工を行う際の方法と注意点について解説された。

高い精度で加工を行うためにはそれに適した支台歯形成が必要であり、症例に応じて従来の方法と使い分けを行っておりそれぞれの利点、欠点を理解することの重要性を述べられた。

また、歯科衛生士が口腔内スキャナーにて精度の高いスキャンを行うためには炎症のコントロールの重要性について述べられた。また、補綴装置の清掃方法や、清掃を行いにくい形態を解説され、清掃性の高い補綴装置の形態について再確認することができた。

最後に歯科医師が咬合再構成を行なった症例を多数提示し、症例に応じたデジタルの使用方法を、診査、診断からプロビジョナルレストレーション、そして最終補綴装置の工程において解説された。

多数歯における補綴を行う場合は、口腔内スキャナーのデータの歪みが生じることから、ファイナルプロビジョナルレストレーションを用い口腔内にて機能的に問題のないことを確認し、そのプロビジョナルレストレーションをスキャニングしジルコニアクラウンに材料の置き換えを行う方法を述べられた。

また、多数歯のインプラントを用いた症例においては、マルチアバットメントシステムのような中間構造体を介したスクリーリテインの上部構造にすることで定期的なメンテナンスの際に、上部構造を外し清掃を行うことがインプラント周囲炎の予防につながると解説し、実際の清掃方法を歯科衛生士が説明した。

治療にデジタルを用いることで多くの恩恵を得られることができるが、従来の方法の技術、知識をもった上でデジタルを使用することの重要性を述べ終演となった。

今回、デジタルを用いた症例を歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士の立場から発表して頂き、デジタルを用いた利点、欠点、またその注意点について理解することができ、今後デジタルを使用する際のヒントを多く与えられた。

最後に最高顧問の本多正明先生から

デジタルデンティストリーの発展は歯科界に大きな発展をもたらすであろう。

しかし基本概念を忘れずに正しく進化して欲しいという貴重なコメントを頂戴し活気のある会となった。

今後も会員の皆様により充実した情報を提供できる場にしていきたい。

日本臨床歯科学会大阪支部技工部会 執行部 井上陽介
日本臨床歯科学会大阪支部技工部会 統括理事 藤本光治



